

◆彦根市 PTA 連絡協議会◆

【講演テーマ】 聴いていますか？子どもの声を

【講師】 滋賀県スクールソーシャルワーク スーパーバイザー
スクールソーシャルワーカー 上村 文子氏

【開催日時】 令和元年 10 月 3 日（木）
9：30～11：40

【会場】 ひこね市文化プラザ
メッセホール

【参加者数】 107 名



～講演の内容～

○行動は悪くても「悪い子」はいません。しかし、関わりを間違えると、子どもは自分を「悪い子」と感じ、“どうせ”と言って自信を無くします。

→学校不適応（不登校・問題行動・いじめなど）の背景には、多くのことが関連しています。大人を困らせるような症状に見えるが、【本当は子どもが困っている】ことが大変多いのです。

○子どもは手にかけ、声かけに見てもらい“関わり”が一番望んでいます。

→だからこそ、スマホに子守をさせるのではなく、両手を伸ばして届く範囲で温めてあげる“ことば”をかけることが大切です。

→子育てはとても“忙しい”ものです。だからこそ、質の高い関わりをしましょう。

（洗い物の時、ちょっと手を止めて近くに行って話をするだけでもいいのです。この、ちょっと手を止めて“あなただけに”という瞬間が大切です。）

○「ほめる」と「しかる」のバランスが大切です。

→「あんたは悪い子」と子どもの人格を否定するのではなく、「間違った行動を叱りましょう」。そして、次は“どうしたら良いか（行動）”を分かりやすく教え、その変化を見届けましょう。

→誰かと比べるのではなく、間違った行動をしたときの気持ちを受け入れ、あなたはどうか思ったのかを伝えましょう。

○「大人からの適切な関わりを増やし行動の変化を見届け促す」

→子どもの困り感が出てきたら、受け止めてあげる。そして、怒るのではなく“叱る”“諭す”“教える”そして行動に変化が出たら“認める”そうすることで【子どものやる気を引き出す】それがいつしかGOODサイクルに変化していきます。

～感想より～

- 上村先生の話は、「自分の家での様子を知っているのか？」と思うくらいでした。耳が痛くなる場面も多々あり、今日帰ってから、さっそく実践しようと思いました。
- 子どもの「ほめ方」「叱り方」を学び、自分の毎日の育児を振り返ると反省する点多々ありました。家事をする手を止め、子どもの話をしっかりと聞く時間を少しでもとること、子どもの目線で話をすることを大切にしていきたいと思いました。
- 我が子が生まれてきてくれた時は、本当にそれだけで幸せで元気でいてくれたらいいと思っていたけど、成長していくにつれて「こうして欲しい」という願望が強くなり、出来ないことに対して長々と怒ってしまっていました。今回の研修に参加させていただき、もう一度娘に叱る時には“少し落ち着いてから”“短く教えていけるようにしたい”と思いました。今子どもと向き合ってほめる時間を大切に過ごしていきたいと思える研修でした。ありがとうございました。
- ゆったりとした声で話してくださり、とても聞きやすく分かりやすかったです。毎日、子育てであくせくしている中で、先生の優しい声でふと立ち止まって考えるきっかけになりました。自分自身の子育てに誇りを持って頑張ろうと思います！とても充実した時間をありがとうございました。
- 子どもが泣いているときや怒っているときに、実は自分は「説明させようとしていたんだな」と反省しました。そうではなく、きちんと気持ちを受け止めるところから始めようと思います。
- 子どもへの関わり方に悩み、このままではいけないなと感じていて、最近、改めたところでした。自分自身が穏やかだと子どもの姿も穏やかで手ごたえを感じていたので、今回、上村先生のお話を聞いて、自分の関わり方を変えたことに自信を持つことができるようになりました。ありがとうございました。